

和歌山だより

2025年 (令和7年) **第188号**



一枚岩（古座川町）

国の天然記念物に指定されている「一枚岩」は、約1500万年前の火山活動で形成された硬く固結した火砕岩でできた、高さ約100m、幅約500mの一枚の巨大な岩盤です。その壮大で重厚な岩壁とともに、桜や紅葉など、四季折々の自然の美しさも楽しむことができます。
(写真提供：公益社団法人和歌山県観光連盟)

CONTENT

1	知事メッセージ	p. 1
2	和歌山県政トピックス	p. 2 ~ 13
3	お知らせ	p. 14 ~ 22
4	ふるさと歳時記	p. 23 ~ 24



和歌山が世界に誇るうめとみかん

「みなべ・田辺の梅システム」が和歌山県で初めてとなる、世界農業遺産に認定を受けて10周年を迎えます。この記念すべき年に、もう一つの「有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム」が県内2例目として認定を受けました。和歌山を代表する果実であるみかん栽培の知恵が、自然と共生する独自の農業システムとして、認定されたことは本当に嬉しいことです。

しかし今年、みなべ町や田辺市を中心としたうめ園において2年連続となる甚大なひょう害が広範囲にわたり発生し、被害額は約48億円にも達しました。農家の方々の落胆はいかばかりかと言葉もございません。

そのため県では被災されたうめ農家の方々が営農をあきらめることがないように、関係機関と連携して被害果実及びうめ加工品の消費拡大応援キャンペーンを実施するとともに、次期作に向けて意欲的に営農を続けていただくために、肥料購入費の一部を支援する“うめ生産安定緊急対策事業”を創設するなど、さまざまな対策を行ってまいりました。

一方で、この農業システムが認定されたことは、みかん生産量日本一を誇る和歌山県にとって、本当に素晴らしいニュースとなりました。地域の皆さまや県議会農業遺産推進協議会とともに認定に向けて長年取り組んできた成果として、嬉しくもあり、世界に誇れるものがまた一つ増えたなど大変喜んでおります。

今後も地域の皆さまと手をたずさえて、受け継がれてきた美しい景観と農業技術を未来へと引き継ぎ、このたびの登録を契機に「地域の宝」を世界へ発信してまいります。

これを機会にうめとみかんという和歌山を代表する果実が共に次世代の担い手へと受け継がれ、永遠に発展し続けることを願っています。

和歌山県知事 宮崎 泉



10/10 令和7年和歌山県知事表彰式にて

●「有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム」が世界農業遺産に認定されました!!

和歌山県が参画する有田・下津地域世界農業遺産推進協議会から国際連合食糧農業機関（FAO）へ申請を行っていた「有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム」が、8月26日に世界農業遺産に認定されました。

世界農業遺産とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた伝統的で独自性のある農林水産業と、それと密接に関わって育まれた文化、景観（ランドスケープ(*1)・シースケープ(*2))、農業生物多様性などが相互に関連して一体となった地域のシステムをFAOが認定する制度です。国内では17地域が認定されており、本県では、2015（平成27）年の「みなべ・田辺の梅システム」に続いて2例目の認定となります。



有田・下津地域のみかん園地（石積み階段園）

「有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム」の特徴は4点あります。

1点目は、その名のとおり「石積み階段園」であることです。400年以上前の江戸時代から、農家の手により山を開墾して壮大な石積み階段園を築き上げ、高品質なみかんを生産してきました。こういった世界的にも珍しい土地利用により、独自の景観が形成されました。

2点目は、みかんの貯蔵庫を有していることです。下津地域では、収穫後のみかんを木造・土壁の貯蔵庫で貯蔵し、糖分と酸味のバランスを整え、自然の力で甘みを増した「蔵出しみかん」が1月から4月に出荷されます。

3点目は、伝統的な神事と密接なつながりがあることです。有田・下津地域には、みかんにまつわる深い伝統文化が根付いています。みかんの神に豊作を祈願する神事や江戸時代に嵐の中、海に船出して江戸にみかんを運んだ豪商「紀伊国屋文左衛門」にちなんだ祭りが、毎年開催されています。

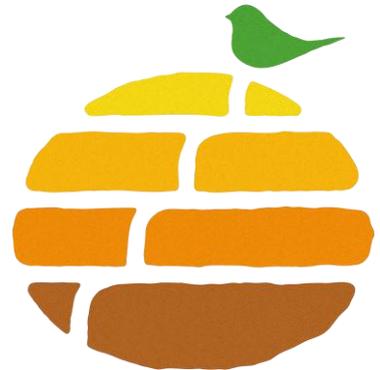
そして4点目は、苗木の供給が行われていることです。この地域では、一部のみかん農家が苗木生産を担っています。地元の苗木生産者は品種の特性を維持するため、品種の原木により近い樹から接ぎ木用の枝を取り、苗木を生産しています。こうして品種の遺伝的特性が保たれ、果実品質に維持に貢献しています。

*1) ランドスケープ：土地の上に農林水産業の営みを展開し、それが呈する一つの地域的まとまり

*2) シースケープ：里海であり、海岸地域で行われる漁業や養殖業等によって形成されるもの

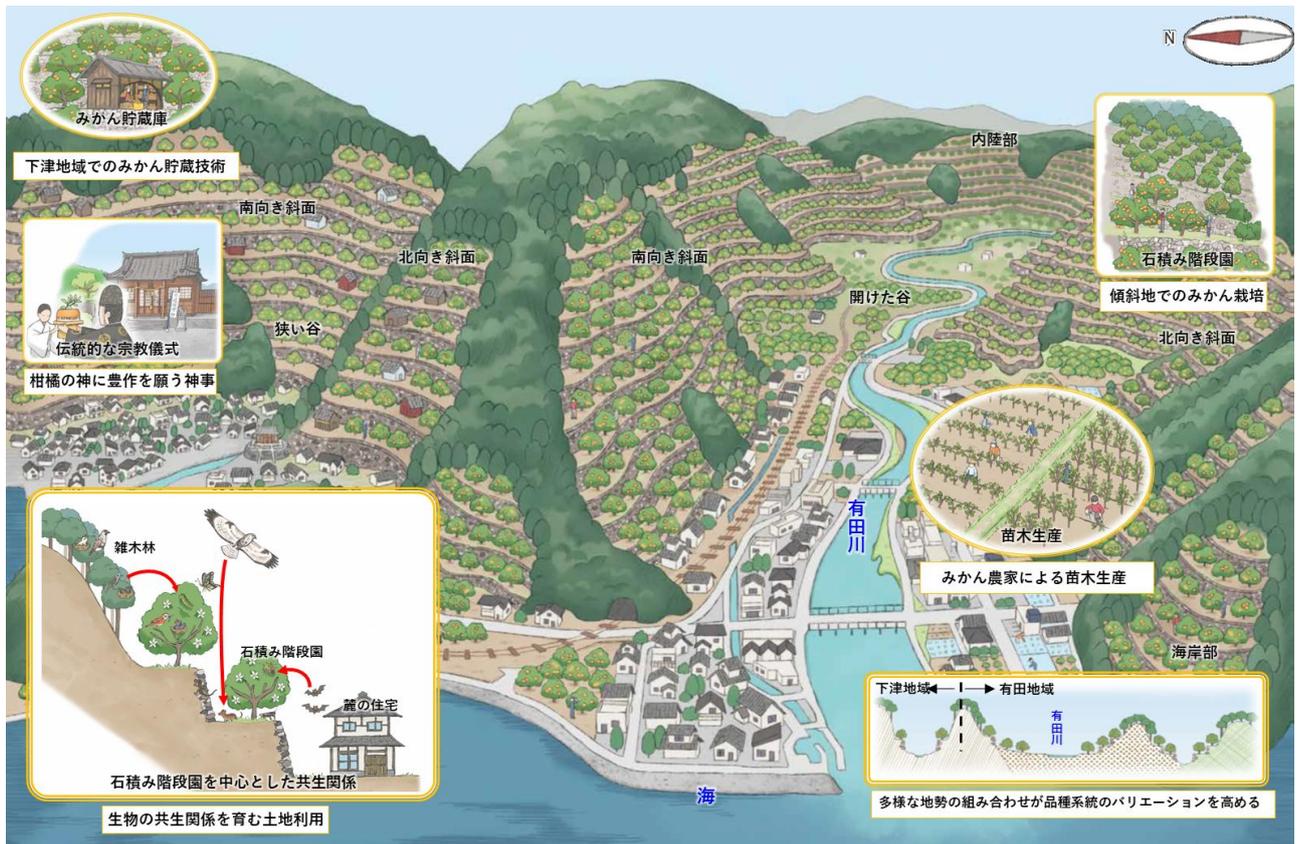
このように、本システムは自然条件を巧みに生かして多様な品種系統を導入し、貯蔵技術も駆使することで、年内の有田みかん、年明けの下津蔵出しみかんといった長期リレー出荷を実現した、世界的に重要な農業システムなのです。

なお、昨年10月より公募を開始していた本システムのロゴマークについても、国内外から431点もの応募を頂き、専門家等による厳正な審査を経て、右のデザインに決定されました。このロゴマークには、「400年以上にわたり築かれてきた石積み階段園。その一段一段には、柑橘農業を切り拓いてきた人々の知恵と誇りが刻まれています。みかんの果実に見立てたモチーフには、石積み階段園の風景を重ねました。葉のように添えたホオジロは、自然とともにある暮らしの象徴です。モチーフを右肩上りになるように配置することで、『これからも末永く継承され、愛され続けるみかんシステムであるように』という作者の願いが込められています。



ロゴマーク

今回の認定を契機に、世界に認められた歴史文化、栽培技術や貯蔵技術、石積み階段園を核とする景観など、400年以上前から続く「地域の宝」をしっかりと磨き上げ、ロゴマークの活用などによるみかんの販売促進や誘客のための情報発信を行うなど、地域と一体となった取組を展開し、ブランド力の向上や関係人口の増加などにつなげていきます。



「有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム」の概要

●令和7年和歌山県知事表彰式を開催しました

「和歌山県知事表彰」は、公共の福祉増進に大きな功労があった方やその他広く県民の模範となるべき方の顕彰を目的として、1953（昭和28）年に創設した表彰で、前回までに延べ5,380名、322団体の方々を表彰してきました。



表彰状授与の様子

10月10日に73回目となる「令和7年和歌山県知事表彰式」を開催し、感謝の思いを込めて57名4団体の方々を表彰しました。

式典では、司会者から受賞者の皆さんのお名前を紹介し、各功労部門の代表者の方に知事から表彰状をお贈りしました。続いて、地方自治の振興の分野で功労のあった前和歌山県北山村長の山口賢二やまぐちけんじさんに、受賞者を代表して御挨拶



山口前北山村長による代表挨拶の様子

を頂きました。

山口さんは挨拶の中で、「昨年村長を退任するまで53年間村行政に携わり、村民と苦労を共にしてきた。この度の受賞は「北山村これからもがんばれ」という励ましを頂いたものだと思っている。村の存続のために微力ながら役に立ちたいという決意である。受賞者一同、各地域と各分野においてますます活躍していきたい」と力強く決意を述べられました。

受賞者の皆さんの本県への多大な御貢献に深く敬意を表するとともに、県では、先行きの見通せない国際情勢や人口減少の加速化など、時代が大きな転換期を迎えている今、県民の皆様や地域の声に誠心誠意しっかりと耳を傾けながら、様々な施策に果敢に挑戦し、「笑顔あふれる和歌山」を実現していきます。

なお、今回受賞された皆さんを次ページに掲載しています。

■令和7年和歌山県知事表彰受賞者の皆さん

(順不同・敬称略)

地方自治の振興

市町村長や議員などとして長年にわたり地方自治の発展に尽くされた方々

浅井 周英／西本 和明／増谷 憲／森川 嘉久／山口 賢二／竜神 進 (6名)

保健福祉の増進

民生委員・児童委員や医師などとして長年にわたり地域の福祉や医療、保健の発展と向上に尽くされた方々

石垣 博之／大畠 信雄／小田 郁代／木下 智弘／児嶋 慶和／佐原 靖彦
DV被害者支援の会 ニュースタート／中野 成子／西村 重光／筈谷 容子／美野 勝男
和田 吉男 (11名・1団体)

環境衛生の向上

生活・食品などの衛生水準の向上等を通じ、環境衛生の充実に尽くされた方々

垣内 欣久／北 敏彦／田中 大治 (3名)

暮らしの安全及び向上

地域の防災、防犯、交通安全指導などを通じ、県民生活の安全を確保し、その向上に尽くされた方々

奥村 昌弘／出羽 雄次／土井 マリ子／大原 貴美／田畑 孝芳／古市 啓悟
甲佐 公一／田中 洋子／下林 善信／寺下 能明／西山 悦雄／加太地区防災会
三谷 健一郎／福田 利雄 (13名・1団体)

教育、文化等の振興

私学振興、文化を通じた地域の振興、国際交流、青少年の育成、人権啓発の推進などに尽くされた方々

石黒 悦子／岩鶴 敏治／林 吉男／串本町トルコ文化協会／栗山 博子／芝本 洋子
(5名・1団体)

産業の振興

商工業、農林業、建設業など各分野での活動を通じ、業界の振興及び育成発展に尽くされた方々

東 猛嗣／角谷 太基／神谷 弘起／谷口 忠則／中村 泰介／外山 靖夫
高垣 せり／田中 孝／谷口 秀雄／中田 吉昭／野田 正史／前田 年史
吉田 俊久／泉 巖／樫原 一廣／野井 和重／武田 孝夫／竹中 暢啓 (18名)

ボランティア

精力的なボランティア活動により住民福祉の発展に尽くされた方

森川 勝 (1名)

地域おこし

様々な分野での新たな取組により地域の活性化に尽くされた方々

弁慶市実行委員会 (1団体)

●「宇宙シンポジウム in 串本 ～宇宙へ届ける『荷物』の活用方法～」を開催しました

県では、8月31日に「宇宙シンポジウム in 串本」を開催し、現地とオンライン合わせて約650名の方々に御参加いただきました。

今年で7回目を数える本シンポジウムでは、カイロスロケットが宇宙へ届ける「荷物」(人工衛星)が私たちの暮らしにどのように関わっているのか、その活用方法について探ることをテーマとしました。

まず、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の宇宙飛行士、古川^{ふるかわさとし}聡さんに「次は君が宇宙に」と題して特別講演を行っていただきました。



基調講演の様子

古川さんは、2011(平成23)年にフライトエンジニアとして国際宇宙ステーションISSに165日間滞在し、その間実験棟「きぼう」における実験等に従事した経験などを紹介するとともに、こどもたちに夢を持ち、その夢に向かって一歩動くこと、挑戦することの大切さについて伝えていただきました。続いて、小型衛星の製造などを手掛ける株式会社アクセルスペースホールディングス代表取締役 CEO の中村^{なかむらゆうや}友哉さんには「宇宙を誰もが利用できるインフラに



パネルディスカッションの様子

～小型衛星が切り拓く宇宙活用の未来～」を、三菱電機株式会社先端技術総合研究所移動体・宇宙システムグループマネージャーの佐藤^{さとうゆうき}友紀さんには「身近な宇宙利用である衛星測位の世界」をそれぞれテーマとして基調講演を行っていただきました。また、1回目から御登壇いただいている東京大学大学院工学系研究科教授の中須賀^{なかすかしんいち}真一さんをモデレーターとして、中村さん、佐藤さん、スペースワン株式会社取締役の遠藤^{えんどうまもる}守さん、県立串本古座高等学校教諭の藤島^{ふじしまとおる}徹さんの4名でパネルディスカッションを行っていただきました。

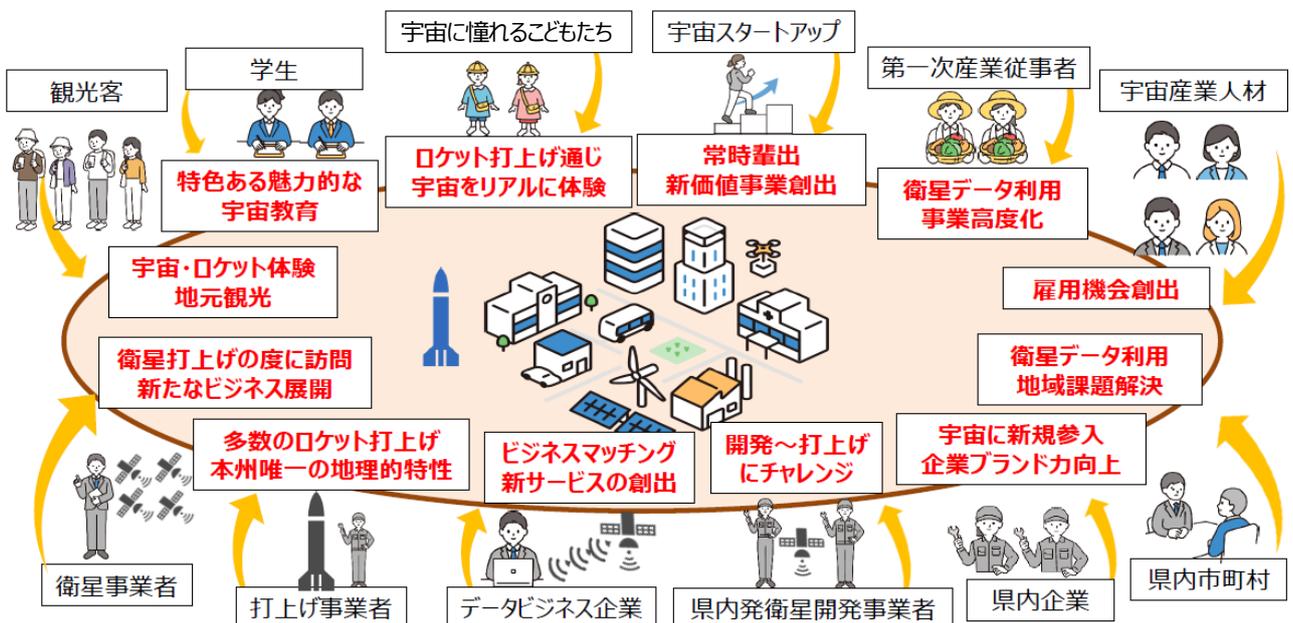
さらに、県立串本古座高等学校の生徒の皆さんには、シンポジウムの受付や司会などの運営に参画いただくとともに、CGS（Community General Support 地域包括的支援）部の生徒と宇宙探究コースの生徒の皆さんには課外活動や授業で得られた学びなどについて事例発表を行っていただきました。参加した生徒からは、「串本の地で、JAXA やスペースワン株式会社、宇宙に関わる企業の貴重な話を聞いて、とても良い経験になった。串本だけでも宇宙について学ぶことはできるが、他の高校生や企業、大学など、外の世界にも様々な宇宙があると思うのでいろいろな所から吸収して自分の学びにしていきたい」などの感想が聞かれ、今回も大変有意義なシンポジウムとなりました。



県立串本古座高等学校の生徒の皆さんによる発表の様子

県では、将来の市場成長性やロケット発射場がある本県との親和性が高い宇宙産業を、本県の将来を担いうる成長産業の候補として位置づけており、本県に宇宙産業を集積するための行動指針として、紀南地域の10市町村と共同検討し、「宇宙アクションプラン」を策定しました。本アクションプランでは、本県が目指す“宇宙のまち”の将来像として、あらゆる企業や人が宇宙と関わり、夢を実現していく宇宙への玄関口「スペースエントランス」となることを掲げています。

今後は、本アクションプランに基づき、各市町村や事業者等の関係機関と連携しながら、本県が魅力ある宇宙のまち、「スペースエントランス」となることを目指して、様々な取組を進めていきます。



宇宙のまちとしての将来像

●第1回「在外和歌山県人会次世代リーダーズの集い」を開催しました

和歌山県は、1880年代以降、およそ33,000名の移民を世界に輩出した、全国で6番目に移住者の多い県です。これまでも県では、各県人会の記念式典への訪問団派遣や5年に1度開催の「和歌山県人会世界大会」を通じて、交流を深めてきたところです。

こうした中、在外和歌山県人会の次世代の育成などを目的として、7月26日から8月2日までの日程で「在外和歌山県人会次世代リーダーズの集い」を初めて開催しました。

本県に関する移民系の在外県人会は8か国11地域にあり、約1,600人の会員が所属しています。今回はそのうち、アメリカ、アルゼンチン、オーストラリア、ブラジルなど8か国10地域に及ぶ在外和歌山県人会の代表青少年13名が集まり、県内の4高校・5名の高校生と共に移民関係施設や県内企業を訪問するとともに、郷土の歴史を学習し、国際交流団体や和歌山大学の学生と交流しました。さらに、本県と県人会の交流の活性化方法について、在外和歌山県人会代表青少年と和歌山県内高校生がプレゼン



熊野那智大社訪問の様子

テーションを行いました。なお、優れた発表を行った県内高校生2名には、今年で創立40周年を迎えるメキシコ和歌山県人会訪問の機会を提供します。

参加した県人会の青少年からは、「和歌山や移民の歴史について学ぶことができ、ルーツである和歌山と自身の深いつながりを感じた。この経験を県人会活動に活かしていきたい」などの感想が聞かれました。

移住された方々は、和歌山県人会を組織し互いに支え合いながら、和歌山県人としての、失敗を恐れず挑戦する心意気をひと時も忘れることなく、様々な困難を乗り越えて生活基盤を築かれ、移住先の国々の発展に寄与されるとともに、ふるさと和歌山を支えてくださいました。

本事業を通して、共に学び、議論し、友好を深めた参加者の皆さんが、近い将来リーダーとなって、在外県人会と本県の交流の懸け橋となってくれることを大いに期待しており、次世代リーダーズの集いは今後も5年に1回程度の開催を目指していきます。



移住ミュージアム(神戸市)での学習の様子



プレゼンテーションの様子

●トルコ共和国を訪問しました

宮崎知事は、オスマン帝国の軍艦「エルトゥールル号」の海難事故から135周年、イラン・イラク戦争時のトルコ航空機による邦人テヘラン脱出から40周年を迎えたことを受け、メルシン市との姉妹都市縁組から50周年を迎える串本町の田嶋町長と共に、8月3日(日)から8月7日(木)の日程でトルコ共和国を訪問しました。

公益財団法人土日基金との青少年交流に係る覚書締結式

- 日 時：8月4日(月)10時40分～11時40分
- 場 所：土日基金文化センター
- 相手方：ネジャット・ボラ・サヤン理事長

知事は、トルコ共和国における日本との本格的な二国間交流活動の拠点として、文化・経済等において交流を行い、両国の友好協力関係を一層発展させることを目的に活動を行っている公益財団法人土日基金を訪問し、ネジャット・ボラ・サヤン理事長と青少年交流に係る意見交換を行いました。

また、公益財団法人土日基金と防災・文化理解等に資する青少年交流を目的とした覚書を締結しました。

覚書の締結式には、^{かつまたたかひこ}勝亦孝彦 駐トルコ共和国日本国特命全権大使やコルクット・ギュンゲン トルコ外務省二国間関係局長などが出席され、今後の和歌山県とトルコ共和国との友好発展に期待する旨の御挨拶を頂きました。あわせて、知事は、会場に集まった現地のこどもたちやトルコ共和国外務省関係者、土日基金職員などに向けて和歌山県の魅力や今後の青少年交流に関するプレゼンテーションを行いました。



覚書締結の様子

ゼキ・レヴェント・ギュムリュクチュ トルコ共和国外務副大臣との意見交換

- 日 時：8月4日(月)16時00分～16時50分
- 場 所：トルコ共和国外務省
- 相手方：ゼキ・レヴェント・ギュムリュクチュ トルコ共和国外務副大臣

知事は、ゼキ・レヴェント・ギュムリュクチュ外務副大臣を表敬訪問し、トルコ共和国と日本のこれまでの友好を次世代に継承していくことなどについて、意見交換を行いました。ギュムリュクチュ外務副大臣は、これまでの友好関係に謝意を述べられる



意見交換の様子

とともに、土日基金との覚書に基づく青少年交流による友好関係の更なる深化のほか、今後、経済面で取引等の拡大などに期待していると述べられました。

駐トルコ共和国日本国大使館主催レセプション

■日 時：8月4日（月）18時50分～21時00分

■場 所：駐トルコ共和国日本国大使公邸

■相手方：勝亦孝彦 駐トルコ共和国日本国特命全権大使

知事は、駐トルコ共和国日本国大使公邸において開催されたレセプションに出席しました。レセプションには、トルコ共和国外務省や同国防衛省関係者など約40名が出席され、和歌山県とトルコ共和国との友好関係をPRする、実りの多いレセプションとなりました。



駐トルコ共和国日本国大使公邸にて

ターキッシュエアラインズ社幹部との意見交換

■日 時：8月5日（火）12時00分～13時30分

■場 所：ターキッシュエアラインズ社

■相手方：ビラル・エクシ ターキッシュエアラインズ社 CEO

知事は、1985年のイラン・イラク戦争時に邦人のテヘラン脱出のために航空機を派遣したターキッシュエアラインズ本社を訪問し、同社のビラル・エクシ CEO と、関西―イスタンブール直行便の再開でますます活発化することが期待される人的交流などについて、意見交換を行いました。また、ターキッシュエアラインズ社が制作したドキュメンタリー映像「串本-KUSHIMOTO-」を次世代に語り継ぐために活用したいと述べ、快諾を得ました。



ビラル・エクシ CEO と知事（中央）

海事博物館視察

■日 時：8月5日（火）14時30分～15時30分

■場 所：海事博物館

知事は、海事博物館を訪問視察し、エルトゥールル号関連の資料の展示等について、カディル・アタセヴェン海事博物館館長より説明を受けました。



視察の様子

ジェトロイスタンブール事務所長との意見交換

- 日 時：8月5日（火）15時40分～16時30分
- 場 所：シャングリラ・ボスポラス・イスタンブール
- 相手方：佐野充明^{さの みつあき} ジェトロイスタンブール事務所長

知事は、佐野充明 ジェトロイスタンブール事務所長を往訪し、トルコ共和国の経済の現況等について、説明を受けました。今後の和歌山県内企業とトルコ企業との間の取引の拡大や人的交流の活性化などについて、意見交換を行いました。



意見交換の様子

在イスタンブール日本国総領事との意見交換

- 日 時：8月5日（火）19時00分～21時00分
- 場 所：セブンヒルズ・レストラン
- 相手方：笠原謙一^{かさほらけんいち} 在イスタンブール日本国総領事

知事は、笠原謙一 在イスタンブール日本国総領事と意見交換を行いました。和歌山県とトルコ共和国とのこれまでの交流や今回のトルコ共和国訪問の趣旨などを説明し、同総領事からはトルコ共和国と日本との交流の現況について説明を受けました。

メルシン県知事との意見交換

- 日 時：8月6日（水）11時30分～12時00分
- 場 所：メルシン県庁
- 相手方：アティツラ・トロス メルシン 県知事

知事は、アティツラ・トロス メルシン県知事を表敬訪問しました。トロス県知事からは、県としてメルシン市と串本町の交流に対し、できる限り支援していきたいとの発言がありました。また、土日基金との覚書締結について説明し、今後更に青少年交流を通じて友好を深め、継続させていくことなどについて、意見交換を行いました。



表敬訪問の様子

メルシン市長との意見交換及び慰霊碑献花

■日 時：8月6日（水）13時00分～14時30分

■場 所：メルシン市役所及びアタチュルク公園内慰霊碑

■相手方：ヴァハップ・セチェル メルシン市長

知事は、エルトゥールル号及び現地で第二次世界戦中に沈没したトルコ軍艦レファ号の犠牲者を悼む慰霊碑への献花を行いました。その後、メルシン市役所を訪問し、ヴァハップ・セチェル メルシン市長と意見交換を行いました。本年が串本町との姉妹都市縁組から50周年を迎えたことを祝うとともに、両市町で今後更に友好交流を深化、継続させていくことを確認するとともに、県としても支援していきたいと述べました。



慰霊碑献花の様子

●新宮市でタウンミーティングを開催しました

2025(令和7)年9月11日に新宮市において、宮崎知事にとって初となるタウンミーティングを開催しました。

タウンミーティングは、知事が直接県民の声を聴き、その思いを県政に活かすことを目的として、岸本前知事が始め、積極的に行ってきた取組です。

新宮でのミーティングでは、地元事業者の方をはじめ、新宮市観光協会やNPO法人、地域おこし協力隊などの皆さんに集まっていただき、身近な問題から防災や子育て、観光、福祉、経営環境といった大きな課題に至るまで、様々な意見が交わされ、議論が白熱しました。



参加者の皆さんと知事



地域の皆さんと有意義な意見交換ができました

県としましては、今回のタウンミーティングで頂いた貴重な御意見を踏まえ、皆さんの日々の課題解決に協働して取り組んでいきます。そして、「紀南の発展なくして和歌山の発展なし」を胸に、山積する課題に立ち向かい、県政を前に進めていきます。

●企業立地等の実績について（7月下旬～9月）

本県の企業立地等の取組について、先号以降の実績を御紹介します。
引き続き、本県のビジネス環境と生活環境の良さを多くの企業にPRし、本県への企業誘致を進めていきます。

株式会社八雲ソフトウェア

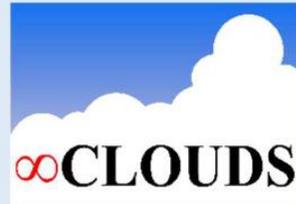
鳥根県に本社を置く株式会社八雲ソフトウェアが、和歌山市に新オフィスを開設することとなりました。

同社は、多様なプログラミング言語を駆使し、民間から行政まで幅広い顧客のシステム開発を手掛けるとともに、kintoneのプラグイン（拡張プログラム）制作等のDX事業を行っています。同事業では、業務課題の整理や解決に最適なアプリ等の構築及び改修を継続して行う「伴走型DX支援サービス」を独自に提供しており、顧客が求める業務環境の実現に向けた支援にも力を入れています。

今回新たに開設する和歌山支社では、ソフトウェア開発及びプラグイン制作の受注拡大や、伴走型DX支援サービスの全国展開を行う予定であり、IT人材の雇用創出や育成、また県内DXの推進にも寄与することが期待されます。

■企業概要

企業名：株式会社八雲ソフトウェア
代表者：代表取締役社長 松本 隆義
設立年月：2013年2月14日 / 資本金：1,000万円
従業員数：42名（2025年4月1日時点）
事業内容：ソフトウェア開発、DX事業、kintone事業、
研修事業、各種コンサルティング



■進出概要

事業所名：株式会社八雲ソフトウェア 和歌山支社
進出場所：和歌山コンピュータビジネス専門学校 太田校舎4階
（和歌山市太田4丁目5-5 野上ビル）
雇用予定：正社員13名（地元12名、転入1名）（3年間）
事業内容：ソフトウェア開発、DX事業、kintone事業、
研修事業、各種コンサルティング
操業開始：2025年8月



7/28 進出協定調印式にて
（左から）知事、松本代表取締役社長、尾花和歌山市長

株式会社早和果樹園

株式会社早和果樹園が有田川町で搾汁工場を新設するにあたり、立地協定を締結することとなりました。

同社は、1979年に有田市において創業し、有田みかんの生産・販売はもとより、有田みかんを原料としたジュース等の加工品を製造し、6次産業化を行っている企業です。2014年度には6次産業化優良事例表彰において農林水産大臣賞を受賞しております。

農業分野では、データを活用した栽培管理や、ドローン防除を用いた園地管理など先進的な農業経営を実践し、美味しいみかん栽培に取り組んでいます。

同社では、県内外からの受注が増加しており、製造が追い付いていない状況が続いています。今回、受注拡大に対応すべく、搾汁工場を新設することで、生産体制を強化する運びとなりました。

■企業概要

企業名：株式会社早和果樹園
代表者：代表取締役社長 秋竹俊伸
設立年月：2000年11月
資本金：9,997万円 / 売上高：16億2,400万円
正社員：75名（2025年4月1日時点）
事業内容：みかんの生産、選別出荷、農産加工及びそれらの販売



■進出計画概要

進出場所：和歌山県有田郡有田川町上中島37-1
敷地面積：3,641.70㎡
雇用予定：32名（地元雇用32名）/ 投資予定：約28億円（建物、設備）
操業時期：2026年11月操業開始予定

●南紀オレンジサンライズ FC の活動を御紹介します!!

皆さん、和歌山を拠点に、「サッカークラブ×プロ意識×地域貢献」という新しい挑戦を続けているサッカークラブ「南紀オレンジサンライズ FC」をご存知でしょうか。

ただ勝利を目指すだけでなく、地域活性化に貢献することを理念に掲げ、2022（令和4）年から活動をスタートさせた、まさに「和歌山の新しい太陽（サンライズ）」のような存在です。

そして、最大の特徴は、県外から和歌山に移住してきた選手やスタッフが中心となって活動している点です。

地域経済への貢献

選手たちは、地域の企業で働きながら練習に励んでいます。特に、梅やみかんの収穫期には、深刻な人手不足に悩む農家を積極的にサポートし、地域になくてはならない存在として貢献しています。

和歌山の魅力発信

試合や練習のない時は、地域のイベントへ参加したり、SNS で和歌山の魅力を発信したりと、スポーツを通じて地域を盛り上げる活動にも力を入れています。

夢を追い、地域に根を下ろす選手たち

選手やスタッフは、サッカーにかける情熱と、和歌山の地で新しい人生を築くという大きな決意を胸に、和歌山に來ています。

梅農家で働く選手、介護の資格を活かして働くスタッフ、皆それぞれの立場で地域の日常を支えながら、目標である関西サッカーリーグへの昇格を目指して日々奮闘しています。

南紀オレンジサンライズ FC を応援しよう！

ぜひ南紀オレンジサンライズ FC への温かいご声援をお願いします！

チームの活躍が、紀南地域、そして和歌山県全体の元気につながります！



やまももネット作業の様子



下駄おどり参加の様子



白熱する試合の様子

上富田町への企業版ふるさと納税でクラブの活動費を支援できます。詳しくは、(株)南紀サンライズまでお問い合わせください。
(担当：もとめ 090-7167-6339)



ホームページ

●「生誕 120 年 村井正誠展 色のやどり・形のうぶすな」を開催中です

県立近代美術館では、「生誕 120 年 村井正誠展 色のやどり・形のうぶすな」を開催しています。岐阜県大垣市で 1905 年に生まれ、1999 年までほぼ一世紀を生きた画家・村井正誠^{むらいまさなり}は、幼い頃に和歌山県へ移り住み、豊かな自然と文化の中で育ちました。とりわけ小学生から中学卒業までの多感な時期を過ごした新宮市で、絵を描き、陶芸を楽しみ、建築の設計もする西村伊作^{にしむらいさく}と友人たちが体現していた創造の喜びにあふれる生活から大きな刺激を受けました。画家を目指すようになった村井は、西村が自由な教育を実現するために東京・神田駿河台に創立した文化学院で美術を学び、卒業後はフランスに渡って制作を始めます。



村井正誠《強そうな人》1989年 油彩、キャンバス
和歌山県立近代美術館蔵

フランスでの村井は、絵を描くかたわら美術館や博物館、教会や遺跡、現代美術ギャラリーなどを巡り、古代から現代まで、様々な場所に生きた人間の表現に触れ、学びとることに努めました。そして鮮やかな色彩とのびやかな生命感を秘めた形を獲得し、そののちの制作を通じて独自の絵画を追究し続けます。



村井正誠《黒い線》1957年 油彩、キャンバス
世田谷美術館蔵

彼が生涯を通じて求めてやまなかったものは、画家の個性の表出にとどまらず、国境を越え、あらゆる時代の人に通じる表現としての抽象絵画でした。だからこそ、描かれた時から長い時間を隔ててなお、私たちの心を動かし続けることができるのでしょう。本展では、それぞれの作品が持つ鮮烈な魅力とともに、彼とその芸術を育んだ土壌の豊かさを感じていただきたいと思います。皆さん、是非お越しくください。

会 期 11月30日（日）まで

開館時間 9時30分～17時（入場は16時30分まで）

休館日 月曜日（祝休日の11月3日、11月24日は開館、翌火曜日に休館）

入館料 一般800円(640円)・大学生500円(400円) * ()内は20名以上の団体料金

* 高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料

* 11月15日（土）、16日（日）は「関西文化の日」として無料

* 11月22日（土）は「和歌山県ふるさと誕生日」として無料

●特別展「紀伊徳川家の威風」を開催中です

和歌山県立博物館では、特別展「紀伊徳川家の威風」を開催しています。

紀伊徳川家は江戸時代の和歌山城主です。徳川御三家の一つとして江戸幕府を支え、8代将軍徳川よしむね吉宗、14代将軍徳川いえもち家茂を輩出しました。1619（元和5）年徳川よりのぶ頼宣が紀伊藩の初代藩主になって以来、紀伊国や伊勢国南部を中心に55万5,000石の所領を有する大名として政治をつかさどりしました。

この特別展では、紀伊徳川家の歴代当主、藩祖頼宣の父親の徳川いえやす家康や母親の養珠院、付家老を務めた田辺領主の安藤家の歴史を物語る資料、絶景の宝庫である日本遺産「和歌の浦」に関わる資料などを

展示し、現在の和歌山県の礎を築いた紀伊徳川家の歴史と文化を紹介します。

なお、展示構成それぞれのみどころは次ページのとおりです。

前期（11月3日まで）、後期（11月5日～11月24日）で一部の資料の展示替えを行います。皆さん、是非お越しくください。



薄浅葱糸威五枚胴具足 安藤直清所用
紀州東照宮蔵

【展示構成】

- I 紀伊徳川家のはじまり
- II 偉大なる父母
- III 紀伊徳川家のみやび
- IV 田辺領主の安藤家
- V 聖地和歌の浦

【主な展示資料】*以下、重要文化財

- | | | |
|-------------------|------------------|----|
| たち めいらいくにとし | とくがわよりのぶしょよう | |
| 太刀 銘来国俊 | 徳川頼宣所用 | 一口 |
| なんばんどうぐそく | とくがわいえやすしょよう | |
| 南蛮胴具足 | 徳川家康所用 | 一領 |
| たち めいさこんしょうげんかげより | しょうおうにねんじゅういちがつひ | |
| 太刀 銘左近将監景依 | 正応二年十一月日 | 一口 |
| たち めいみつただ | | |
| 太刀 銘光忠 | | 一口 |
| たち めいほうきおおはらさねもり | | |
| 太刀 銘伯耆大原真守 | | 一口 |

会 期 11月24日（月・振休）まで

開館時間 9時30分～17時（入場は16時30分まで）

休 館 日 月曜日、11月4日（火）

ただし、11月3日（月・祝）、11月24日（月・振休）は開館

入 館 料 一般910円（750円）・大学生570円（450円） *（ ）内は20名以上の団体料金

*高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料

*関西文化の日（11月15日（土）・16日（日））、ふるさと誕生日（11月22日（土））は無料

展示のみどころ

I 紀伊徳川家のはじまり～なぜ御三家が和歌山に？～

紀伊徳川家の初代は、徳川頼宣です。これまでは徳川家康の跡を継いだ江戸幕府2代将軍の秀忠が、家康に寵愛された弟の頼宣を和歌山の地へ追いやったという説が有力でした。今回の特別展では、当時の幕府の軍事的な戦略を踏まえて、御三家が和歌山に置かれた理由を考えます。

重要文化財 南蛮胴具足 紀州東照宮蔵



II 偉大なる父母～徳川頼宣の父母と紀伊徳川家との絆～

徳川頼宣の父は徳川家康、母はお万の方（養珠院）です。家康は江戸幕府を開いた武将として有名ですが、母もまた個性的な人物で、当時女人禁制であった七面山（山梨県）に初めて登った女性として知られています。この章では、家康を祀る紀州東照宮とお万の方の菩提寺である本遠寺（山梨県南巨摩郡身延町）所蔵の資料から、2人と紀伊徳川家の繋がりを紹介します。

子安鬼子母神立像 本遠寺蔵



III 紀伊徳川家のみやび～歴代藩主の作品やコレクションの数々～

紀伊徳川家歴代の当主は武士ですが、武芸のみならず、教養人として学問に励み、書画を揮毫し、漢詩や和歌を詠み、茶道や陶芸にも精通していました。この章では、彼らの作品や収集したコレクションなどを展示し、江戸時代の大名の華麗な生活や教養について紹介します。

青磁葵紋火鉢 養翠園蔵



IV 田辺領主の安藤家～紀伊藩ナンバー2ゆかりの品々～

紀伊徳川家と比べるとあまり知られていませんが、田辺城の城主で、紀伊藩で藩主やその一族に次ぐ地位を誇ったのが安藤家です。初代当主の安藤直次は、徳川頼宣を傅役（今で言う教育係）として支え、明治時代には藤巖神社（田辺市）に祀られています。

陣羽織 安藤直次所用 鹿島神社蔵



V 聖地和歌の浦～今年は南龍神社創建150年～

徳川頼宣が父母を祀った和歌の浦は、風光明媚な名所として知られています。明治維新で紀伊徳川家の支配は終焉しますが、紀伊徳川家を慕う旧藩士たちが奔走して、今から150年前の1875（明治8）年この地に頼宣を祀る南龍神社が創建されました。

八幡神立像 紀州東照宮蔵



● 令和7年度休館記念秋期特別展「遙かなる古墳時代の海へー紀伊半島と海をめぐる交流ー」を開催中です

県立紀伊風土記の丘では、秋期特別展「遙かなる古墳時代の海へー紀伊半島と海をめぐる交流ー」を開催しています。

紀伊半島は、日本列島の中央に位置する国内最大の半島です。三方を海に囲まれた紀伊半島の人々は、古来より海と関わりをもちました。

海は暮らしの場であるとともに、外部世界とつながる場でもありました。そして、紀伊半島の人々は東西に接する海を通じ、東日本（太平洋）と西日本（瀬戸内海・太平洋）との交流を行いました。本展示で取り上げるのは、古墳時代を中心とした海の交流です。古墳時代、倭王権は朝鮮半島との対外交渉を重視し、その中で、紀伊半島の有力者たちは倭王権の一部として水運や軍事に関わりました。



向屋敷遺跡出土祭祀遺物（串本町）
【串本町教育委員会蔵】

一方、海を介した人々の交流は倭王権や有力者だけにとどまらず、漁労や製塩といった生業をめぐる技術、そして、岩陰・洞穴への埋葬、海に関わる祭祀には共通性が認められ、紀伊半島に住んだ人々が主体的に行った交流も存在します。

本展示では古墳時代を中心に、紀伊半島と海をめぐる交流について明らかにします。展示では、船と航路、古墳などの墓と副葬品、海の暮らしなど様々な位相における交流を示すとともに、紀伊半島との関わりをもつ地域との交流についても考えます。

なお、本展示の内容は2028（令和10）年度に開館予定の和歌山県立考古民俗博物館（仮称）における【展示室Ⅳ紀伊半島と海】の展示内容「海と交流」とも関連します。2025（令和7）年度末で当館は一旦、休館しますが、新たに生まれ変わる当館の展示の一部として御覧ください。



巢山古墳出土葬送船（広陵町）
【広陵町教育委員会蔵】

会 期 12月7日（日）まで
開館時間 9時～16時30分（入場は16時まで）
休 館 日 毎週月曜日（11月3日、11月24日は開館）、11月4日（火）、11月25日（火）
入 館 料 一般400円（320円）・大学生240円（180円） *（ ）内は20名以上の団体料金
*高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料
*無料開放の日：11月15日（土）、11月16日（日）、11月22日（土）、12月2日（火）

● 「企業版ふるさと納税」で和歌山県の取組を応援しませんか？

企業版ふるさと納税とは、企業の皆様が寄附を通じて地方公共団体の地方創生プロジェクトを応援した場合に、税制上の優遇措置が受けられるほか、様々なメリットがある仕組みです。

和歌山県では、この制度を活用し県の地方創生の取組を応援していただける企業の皆様を募集しています。

企業版ふるさと納税とは

- 「企業版ふるさと納税」は、国が認定した地域再生計画に位置付けられる**地方公共団体の「地方創生プロジェクト」**(*)を応援するために企業様が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みです。
*和歌山県の主な取組(2025年度)は次ページに掲載しています。
- 損金算入による軽減効果(寄附額の約3割)を含め、最大で**寄附額の約9割にあたる法人関係税が軽減**され、実質的な企業様の負担が約1割まで圧縮されます。

【税軽減のイメージ】



*本制度を活用できるのは、**和歌山県外**に本社がある企業様のみです。

*1回当たり**10万円以上**の寄附が対象です。

*寄附を行うことの代償として経済的な利益を受けることは禁止されています。

企業様のメリットについて

- 社会貢献に取り組む企業としての**PR効果**が期待できます！
- 企業様と県との間で、**新たなパートナーシップ構築**の可能性が広がります！
- 県をはじめ、地方創生プロジェクトに関わる多様な主体との新たな関係構築の可能性が広がります！

詳細はこちらから

⇒ <https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022200/d00204504.html>

お問い合わせ先：和歌山県 地域振興部 地域政策局 地域振興課 地域支援班

TEL：073-441-2426

MAIL：e1001001@pref.wakayama.lg.jp





和歌山県の 主な取組

本県では、「積み重ねてきた施策をさらに発展させる」とともに「時代の流れに的確に対応」し、かつ「新たなことに果敢に挑戦」することで、本県のもつ潜在力を解き放ち、**力強い新たな発展**を目指しています。

01 ひとを育む



- ・ **こども食堂**への支援
- ・ 県立高等学校での**eスポーツ**取組支援
- ・ **ゲームクリエイター**による**コミュニティ構築**支援 etc



02 しごとを創る

- ・ **外国人材**の受入整備
- ・ 多様で健全な**森林の育成**
- ・ **第49回全国育樹祭**開催支援
- ・ **農林漁業と地域の持続可能性**を高める取組の推進
- ・ **民間ロケット発射場**を核とした**地方創生プロジェクト** etc

03 くらしやすさを高める



- ・ 保護収容された犬猫の返還譲渡の推進
- ・ **地域猫対策**の推進 etc



04 地域を創る

- ・ **二地域居住**促進プロジェクト
- ・ **関係人口**の創出事業 etc

* 詳細なプロジェクト内容については、下記二次元コードよりご覧いただけます。

* 上記以外の取組につきましても、随時ご相談承ります。

(電話、メールのほか、訪問対応も可能ですので、お気軽にご連絡ください。)



* メールでの申請が可能です。(申請書は県HPよりダウンロードができます。)

●ふるさと和歌山応援寄附【わかやま未来応援型】の御案内

ふるさと納税制度は、「生まれ育ったふるさとに貢献できる制度」、「自分の意思で応援したい自治体を選ぶことができる制度」として創設されました。

和歌山県では、ふるさと納税制度の原点に立ち返り、「和歌山を応援したい」「この取組を支援したい」というお気持ちから、返礼品を設けずに御寄附を頂く新たな寄附メニューとして、ふるさと和歌山応援寄附【わかやま未来応援型】を設け、4月より募集を開始しました。

従来のふるさと和歌山応援寄附は【県産品応援型】(返礼品有り)、【教育環境充実型】(返礼品無し)として引き続き募集しています。

和歌山県外にお住まいで【県産品応援型】(返礼品有り)に13,000円以上の御寄附を頂いた方には、和歌山県の優良県産品の商品のうち、事業者の協力を得て選定した返礼品をお選びいただけます。和歌山県が誇る優良県産品を是非御堪能ください。

ふるさと和歌山応援寄附についての詳細は、和歌山県のホームページ上の「ふるさと和歌山応援サイト」に掲載しています。

これからも、ふるさと和歌山応援寄附に御協力いただきますようお願い申し上げます。

わかやま未来応援型



ふるさと和歌山応援サイト

検索

各ポータルサイトの2次元コードはこちら

ふるさと
チョイス

ふるなび

ANAの
ふるさと納税

さとふる

JAL
ふるさと納税ふるさと和歌山応援サイトの
2次元コードはこちらわかやま
未来応援型

県産品応援型



教育環境充実型



★お問合せ・申込窓口★

〒640-8585

和歌山市小松原通一丁目1番地

総務部総務管理局税務課

担当 野田、大亦、西浦

電話 073-441-2186 (直通)

FAX 073-423-1192

E-mail: furusato-ouen@pref.wakayama.lg.jp

★お問合せ窓口★

〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-3

都道府県会館12階

和歌山県東京事務所

担当 松場

電話 03-5212-9057

FAX 03-5212-9059

●ふるさと和歌山応援寄附を活用して行う県の取組

①わかやま未来応援型（返礼品無し）

- 地域における防災力の向上
- 和歌山県スポーツキャンプ誘致推進
- 大学生等による和歌山県内での地域貢献活動の推進
- 地域づくり団体等による関係人口創出拡大事業の推進
- eスポーツの推進による新たな若者文化の形成と地域の活性化
- デジタルクリエイティブ拠点の創出
- こどもの居場所づくり
- チャレンジドの社会参加促進
- 医療と福祉のDX推進
- 和歌山を宇宙のまちにしよう！
- 県アンテナショップ「わかやま紀州館」を活用した県産品の魅力発信
- 希少な和歌山県産ブランド和牛の認知度向上
- 和歌山県立近代美術館の活動を応援し、豊かな文化を創る
- 南葵音楽文庫10周年記念事業
- 和歌山ミュージックアカデミー U18

②県産品応援型

- 生涯スポーツと文化の振興
- がん対策の充実
- 犬猫の殺処分ゼロを目指す活動への支援
- 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の保全や活用
- 南紀熊野ジオパークの推進
- 地元企業への就職を促進する奨学金返還支援
- 学校図書館や県立図書館の蔵書の充実
- わかやまの美しい海づくり
- わかやまの文化財の保護
- 大切なふるさとの森を守り育てる
- わかやまのナショナルトラスト
- わかやまの農林水産業の振興
- 子育て支援の充実
- 第49回全国育樹祭の開催支援

③教育環境充実型（返礼品無し）

- こどもたちの教育環境の充実

皆様から頂いた寄附金の成果につきましては、「ふるさと和歌山応援サイト」などで報告させていただきます。

*最新の情報は、主催者等へお問い合わせください。



イベント情報（11月～2026年1月）

開催日・時期	行事名	場所	問い合わせ先
11月1日 ～30日	きのくに文化月間	和歌山県内全域	県庁文化学術課 073-441-2050
11月7日 ～9日	第19回田辺・弁慶映画祭	紀南文化会館 (田辺市)	田辺・弁慶映画祭実行 委員会事務局 0739-26-9929
11月9日	第23回和歌山ジャズマ ラソン	和歌山マリーナシ ティ (和歌山市)	和歌山ジャズマラソ ン実行委員会事務局 073-435-1364
12月18日	しまい観音	紀三井寺 (和歌山市)	紀三井寺 073-444-1002
1月3日	お弓神事	下阿田木神社 (日高川町)	日高川町観光協会 0738-22-2041
1月9日 ～11日	十日戎	水門吹上神社 (和歌山市)	水門吹上神社 073-422-7007
1月14日 ～15日	卯杖祭	伊太祁曾神社 (和歌山市)	伊太祁曾神社 073-478-0006
1月15日	管祭（小豆粥占い）	隅田八幡神社 (橋本市)	隅田八幡神社 0736-32-0188
1月18日	初観音	紀三井寺 (和歌山市)	紀三井寺 073-444-1002
1月下旬	第30回本州最南端の火祭り	潮岬望楼の芝 (串本町)	南紀串本観光協会 0735-62-3171
	すいせん祭	県立白崎青少年の家 (由良町)	県立白崎青少年の家 0738-65-2351

自然・風物情報（11月～2026年1月）

時期	自然・風物名	場所	問い合わせ先
11月3日	第39回和歌浦漁港朝市 しらすまつり	和歌浦漁港駐車場 (和歌山市)	有限会社ベイサイド 和歌浦 073-446-3308
11月上旬	和歌山城公園の松 「こも巻き」	和歌山城公園 (和歌山市)	和歌山城整備企画課 073-435-1044
	有田みかん出荷始まる	有田市	—
11月中旬	串柿づくり最盛期	四郷地区 (かつらぎ町)	かつらぎ町観光協会 0736-22-0300
11月下旬	紅葉見頃（県内各所）	紅葉溪庭園 (和歌山市) 奇絶峡、発心門王子 (田辺市) 瀨峡 (新宮市)	和歌山城整備企画課 073-435-1044 田辺観光協会 0739-26-9929 熊野本宮観光協会 0735-42-0735
11月中旬 ～12月上旬	福定の大銀杏見頃	田辺市中辺路町	中辺路観光協会 0739-64-1470
11月中旬 ～2月下旬	布引だいこん出荷最盛期	和歌山市布引	海草振興局 農業水産振興課 073-441-3382
12月～1月	蔵出しみかん貯蔵	海南市	海草振興局 農業水産振興課 073-441-3382

～編集後記～

春に始まった大阪・関西万博が10月13日に終了しました。開幕以降、日を追うごとに人気が高まり、関西パビリオン和歌山ゾーンにも約47万人の方々にご来場いただきました。県内の市町村や企業、地域団体など、様々な方が連携する「県民総参加」の態勢で、和歌山県の魅力を国内外に発信してきました。万博を通じて得たつながりを発展させて、さらに魅力あふれる和歌山県をつくっていきます。

先日、紀の川市にある青洲の里に行ってきました。麻酔薬「麻沸散（まふつさん）」をつくり、世界で初めて全身麻酔による乳がん摘出手術を成功させた同氏の偉業を学べる展示室や、住居兼診療所である「春林軒」が併設されている道の駅です。展示室では同氏や門人達が使っていた手術器具や眼鏡、治療を記録した文書等が展示されています。治療の様子を紹介する挿絵は細部まで克明に描かれており大変興味深かったです。ちなみに同氏が全身麻酔による手術を成功させた10月13日は、日本麻酔科学会によって「麻酔の日」に制定されています。

長い夏がようやく終わり、朝夕には涼やかな風が吹くようになりました。秘書課の窓から見える木々の葉も少しずつ色づいており、確実に秋へと向かっていることを感じます。

今号も最後までご覧いただきありがとうございました。

知事室 秘書課長 魚井 慎吾



★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ではカラーの紙面を楽しんでいただけますので、是非御覧ください。

和歌山だよりに対する御意見・御感想をお聞かせください。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報を御提供ください。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。（下記のFAX（様式自由）、E-Mail等でお願ひします。）

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp



県ホームページ
二次元コード



ふるさと和歌山
応援サイト二次元コード

2025年（令和7年） NO.188

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2026

*個人情報につきましては、「和歌山だより」
の発行以外の目的には、使用いたしません。

